

## 実習 6 視覚補助具選定の実際

国立障害者リハビリテーションセンター病院眼科 三輪まり枝  
山田明子

### 1. 視覚補助具選定の手順 について

視覚補助具はレンズ系を用いる光学的補助具(眼鏡、拡大鏡など)と、レンズ系を用いていない非光学的補助具(拡大コピー、タイポスコープなど)に大別される。

国リハでの視覚補助具の選定手順は以下のとおりである。

- 1) 患者の保有視機能の把握
- 2) ニーズ調査
- 3) ニーズに合った補助具の選定
- 4) 補助具の貸し出し
- 5) 処方(補装具の申請)もしくは再選定

ニーズ調査では、問診票などを用いて具体的にニーズを聞き出すことによって、患者のニーズに合った視覚補助具の選定が可能となる。

### 2. 近用拡大鏡選定の実際

近用視覚補助具は形態別に、眼鏡式、手持ち式、卓上式などに分類される。

眼鏡式として、一般に普及している累進屈折力レンズ(遠近・中近・近近)も有効な場合があることを症例を通して紹介した。一般の眼鏡での加入度数では拡大が足りない場合は、ハイパワープラスレンズ眼鏡が有効な場合がある。これは検眼レンズセットがあれば試することができるため、一般眼科でも患者に紹介できる利点がある。低視力の高齢患者の「眼鏡で書字をしたい」というニーズに対応した症例を紹介した。

その他の近用拡大鏡の選定の実際として、手持ち式拡大鏡ではレンズを持った指を紙面に添えて使う等の助言を行った小児のケースや、患者に卓上式を選定している様子などを動画で紹介した。

### 3. 遮光眼鏡選定の実際

遮光眼鏡は、実際に眩しさを感じている環境に類似した場所で選定を行うことが望ましい。遮光眼鏡を選定する者はそのレンズの分光透過率を把握しておく必要がある。

選定の手順として、最初に紹介する遮光眼鏡の色は患者が比較的受け入れやすい緑系や茶系の眼鏡から選定を開始することをお勧めする。自覚的応答の難しい幼児や知的障害児・者に対して補装具として申請する場合には、遮光眼鏡の効果を表情や行動の変化から判断することが可能である。

### 4. 遠用視覚補助具選定の実際

遠用視覚補助具の選定では、特に小児に対して、利き手(鉛筆を持つ手)とは反対の手で単眼鏡を持つと板書がしやすくなることを指導する。今回は小児に対して単眼鏡の操作練習を行っている様子を動画で紹介した。